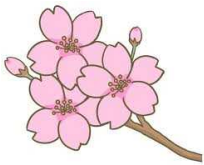


「この一年も、我慢、辛抱でした。当たり前のがたさですね。」

生徒指導通心
最終号

縁(えん)

妻ヶ丘中生徒指導部
令和5年3月24日発行



日本中が、侍ジャパンの「世界一」を喜んでいる中、いよいよ本日『修了の日』を迎えました。4月にスタートした生活も、今日で一(ひと)区切りです。さて、皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。楽しかったこと、辛かったこと、感動したこと…それぞれが、色んな想いで過ごした一年だったと思います。皆さんと過ごした令和4年度も、コロナ禍でもあり、我慢や辛抱を強(し)いられた一年でしたね。しかし、そのような中で皆さんは、強く、たくましく成長してくれました。

あと一週間もすれば、令和5年度がスタートします。このような時期を乗り越えている皆さんですので、次の一年も、大きな成長を遂(と)げてくれると期待しています。さて、それでは、最終号にあたり、メッセージを贈ります。

咲いた花見て 喜ぶなら 咲かせた根元の 恩を知れ

正門付近に、桜の木があります。少しずつ、花が咲き始めています。春はもうすぐといった感じでしょうか。桜を見ると春が来たという感じになります。でも、桜の花が散ってしまい葉桜になると、誰ひとり「ありがとう」の感謝の気持ちもなく通りすぎてしまいます。

実は、きれいな桜の花を咲かせているのも、大地に張った「根っ子」であり、暑い夏や寒い冬を耐え忍び、大自然の恵みを体いっぱい蓄えようと毎日毎日努力しているのも「根っ子」なのです。来年も、多くの皆さんに喜んでもらえるように、桜の木も精一杯生きているのです。

これは人間も同じです。すべての人が生まれてから今日に至るまで、父母や兄弟姉妹、友だちなど数え切れないほどの人にお世話になり、「今」を生かされているのですね。



★答えではなく、問いをみつける★

それではもう一つ。最近では、自分で考えず、すぐに「答え」を欲しがることが増えているようです。それでは自分の力になりません。大事なものは「答え」ではなく、「問い」なのです。

自分で「なぜだろう」と考えないで、「だれだれ先生がこう言ったからそうなんだ」と言ってなんの疑問も持たない。作家の〈ひろさちや〉さんが、中学の社会科で民主主義について「選挙をして多数決で決めていく社会だ」と勉強したとき、「先生、 $2+2=4$ ですけど、多数決で $2+2=5$ だって決まったらどうするんですか」と先生に質問したそうです。

すると先生から「多数が間違うわけがないからそういうことを気にしちゃいけない」と返ってきて衝撃的だったという思い出を語っていました。その先生の言葉に従えば、極端な話〈みのもんだ〉さんが「 $2+2=5$ だよ」と言ったからそうなんだ、となってしまうわけです。それは恐ろしいことだと思いませんか？

だから、それぞれに問いを持つ必要があるのです。テレビや新聞、雑誌はお金をもらって作っていますから、損得というものさしが入っています。だけど、我々は新聞社や雑誌社、テレビ局みたいに、細かい情報を知っているわけではないので、それを信じるしかなくなってしまいます。だからこそ、問いを持たないとひどい目にあってしまうのです。

「逆のものさし思考」清水克衛著/HS



では、問いかけのポイントは、「なんで？」じゃなくて「どうしたら？」です。「なんで？」の問いかけは答えがネガティブになりがちです。「なんでこんななんだろう」「なんで勝てないんだろう」「なんで喜ばれないんだろう」と、ネガティブな答えが山ほど出てきます。一方、「どうしたらもっと良くなるんだろう」「どうしたら勝てるんだろう」「どうしたらもっと喜んでくれるんだろう」と問いかけをすれば、きっとポジティブな答えが返ってくることでしょ。

「答えではなく問いをみつける」ということを肝に銘じておきたいですね。

生徒指導通信『縁(えん)』も38号で最終号となりました。一年間ありがとうございました。

さて、今年も「当たり前が当たり前でない日々」が続きました。このような経験を積んだ皆さんは、必ずや「人として」成長を重ねていることでしょう。さあ、いよいよ4月。新しい出会い、生活のスタートです。始業式、元気な姿の皆さんに会える日を楽しみにしています！

